

話^わじやれ (5)

岐久 ようこ

平成29年3月 4つの話

水の都ですから

ベネツィアでは
網の目のごとく張り巡らされた運河
ゆれる水面を見つめていると
めまいが…

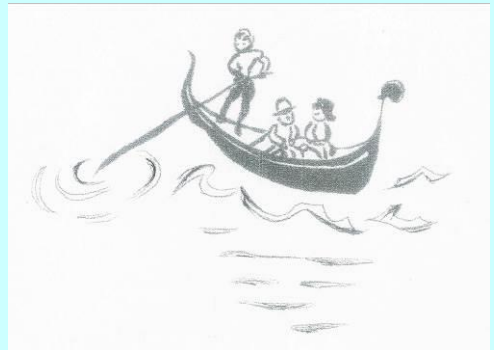
アメリカ映画の「旅情」のヒロインの
キャサリン ヘップバーンが
恋に落ちたロツサノ ブラツツイが
演ずる骨董店の主人の店

その店をハミリカメラに収めようとして
「ドボーン」おぼれかけた恋？
「たすけて！」抱き上げられて
どうともなかったのですが…
この町のシンボリックなゴンドラ
島の数が四百もあるので
暮らしの足は「渡し舟」だった

現存する最後のゴンドラ造船所
何隻も並んでいる光景から
「船底みな平らなんだ！」
運河の底も平らなんかなー
もともと干潟を埋め立て築いた町
土を掘れば塩っぽい
海水はあふれるが
過去にさかのぼっても
高潮ていど

そんなこんなも慣れて
橋だらけ 船だらけ
「車はいらんのじゃ」

ゴンドラの 唄も波うち 結婚式
水だけは ゆたかですと 橋くぐる



花とお喋り

クリスマスローズのうなだれポーズ
うつむいていたら
観賞できない

「うつつうしいなー」

「じつと下向きばかりでは」

そっと花びらを上げたら

「チラチラ」黄色の花弁が落ちて
ツライ涙かしら？

「悪いクセね」

正直に吐きなよと覗きこむ
すると

「あなたこそ正直に年齢が言えなくて
もう五年になるやないですか」

顔をあげて反論してきた

わたしの弱点を突いてきたか

「この年でまともに言えなくて」

「年を隠す それは立派な悪いクセです」

花とお喋りしていたら

歌が流れてきた



♪ あー エプロン姿がよく似合う

あー 花嫁衣装はどうするの

結婚する気はまったくくないのに

嘘がお上手で

「聞く耳を外せばいいのネ」

*1

ほめられて 聞いてどうにも ならぬもの
ウソも聞き 耳を外すの 護身術

*1 歌謡曲「うそ」(山口洋子・詩)の一節

魚食系女子かしら？

「フジヤマだ！」

雲海をたなびかせて

孫フジ ひ孫フジの顔が

雲の帽子を横ちよに控えている

「下に 下に」

中央 北アルプスの山並みが彼方に

大パノラマで広がる

昨日まで南アルプスの

六山を歩き終えて最後の「池口岳」へ

この山は別名「双授岳」とも呼ばれ

二つの頂上をもつ

「はて どっちにしようかな」

都知事選を前に立候補した誰かが

「私は崖から飛び降りています

後には何もありません」

女神さまの方だったかな

もしもです「ゴツツーン」

落下していたら

顔に出していると思うけど

顔に出してもしょうないか

「居直り！」

カプトを脱ぐわけにはいかない

「いっぱい栄養おぎなってる」

のちのちのカテに



知事になり 飛んで降りたは 地下だった

魚市場 魚食系ここまで やります

初夏はもうすぐ

寒い間は

なんとなくコートでおおって

安心できていたが

しだいに体型が気になり始める

春先からブラジャーなどの新商品が

どっと発売されだすのは

そんな女ごころをナイスキャッチ

十代から十代にかかると体型にも

女らしさが芽生えて

バストはふくらみヒップは大きく

今まで脂肪がついていても

「付くべき所についた脂肪」が

四十代になると

しだいに

付いて欲しくない場所に

「キュツと上がっていたのに」嘆く

きゅうくつな感じさえも

「ちよつと へっこんでて」

「フウーツ」鏡の前で息を吐く



無理に脂肪を押えるのではなく

「体にあつた新商品の下着で」

そうすると

流れていた脂肪が本来あるべき

場所にもどつて

なめらかなボディラインに

「さあ くつろぎましょ」

下着キューー 肉塊らしき へこませた

肌ゆるめ 皮ものばして 楽になり